

TOHOKU EPO連信 東北環境パートナーシップオフィス vol. 19



「仙台七夕まつり/市内189の小中学校の子どもたちが復興への思いを込めて折った、計約8万6千羽の虹色の折り鶴」

Contents >>

※ EPO東北の取組について

「『3.11 あの時』ヒアリングを中心に 展開した EPO 東北の取組」

- 器 ECO & 復興支援グッズ
- ■東北6県EPOトピックス



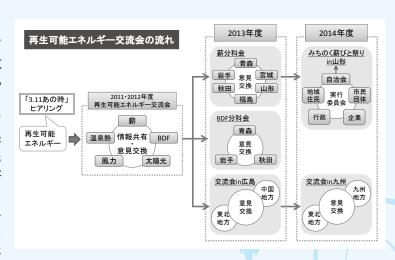
東北環境パートナーシップオフィス(略称:EPO東北)は、東北地域の環境活動を促進するために、人と人をつなぐ拠点となることを目的としています。さまざまな分野の人や組織が垣根を越えて協働できるよう、地域の環境情報の発信と交流機会の提供を行い、活動の広がりや新たな取り組み創出のきっかけ作りを担います。たくさんの人がEPO東北をきっかけに出会い、新たな環境活動の環が広がるよう、皆さんのパートナーシャスがにりたまと、まま

で3.11 恋の時」とアリングを中心とした 国内の 東京の東海について

EPO東北では、東日本大震災を契機に「3.11あの時」と題したヒアリング活動に取り組んできました。「3.11あの時」レポートは、環境NPO以外に企業、福祉団体、協同組合、メディア関係者、大学関係者、中間支援組織、個人など、環境活動に携わってきたさまざまな立場の方々から当時の様子とその後の支援活動について伺ったレポートです。2011年4月から2014年3月までの3年間で計102件のレポートが集まり、被災地の状況や大震災の教訓を全国へ発信してきました。このヒアリング活動は、東北各地の現状や課題を把握することにつながり、EPO東北のさまざまな取組へと展開しています。

■再生可能エネルギー交流会事業

東日本大震災におけるライフライン停止と福島第一原子力発電所事故の発生により、エネルギーに対する人々の意識は大きく変化しました。NHKが2013年5月に発表した世論調査によると、今後最も増やすべき発電に使うエネルギー源として「太陽光や風力などの自然エネルギー」と回答した国民が67%、次いで「天然ガス」11%、「水力」と「原子力」がそれぞれ6.3%となっています。さらに、宮城県東松島市が2012年10月に実施した



市民アンケートによると、市に期待する取組として、「災害時における自立分散型電源の確立」や「再生可能エネルギーの自給率の向上」と回答した市民があわせて50%以上となり、再生可能エネルギーは今後のエネルギー源として注目されていると言えます。

「3.11あの時」ヒアリングでも、深刻なガソリン不足の中、岩手県でバイオディーゼル燃料 (BDF) が物資運搬用トラックの燃料となった活躍事例が明らかとなり、これからのエネルギー供給システムのあり方を見直すべきとの声が多く聞こえてきました。太陽光や風力、BDFなど各再生可能エネルギーの震災時における利用状況を整理し、今後のエネルギーシステムのあり方を探るため、EPO東北では2011年度より意見交換の場を設定し、東北各地の関係団体と再生可能エネルギーの新たな可能性について議論を重ねています。

2011年度と2012年度の交流会では、震災時の利用状況と課題を共有しました。参加者からは、「震災で誰もがエネルギー問題の当事者となった」「現代社会は効率性や利便性を重視した巨大エネルギー供給システムに依存している」「エネルギーの供給が絶たれた時に個人ではどうすることもできない社会だと気づいた」など震災からの学びや、「小規模分散型のエネルギー供給が大切」「地域の暮らしや生業のために自給できるエネルギーが必要」などの意見が出ました。議論を通して、再生可能エネルギーは地域資源から得られるエネルギーであることから、エネルギー源の多様化と分散化を図ることができ、地球温暖化対策などの環境的側面だけでなく、災害などによる供給リスクの軽減(エネルギーを安定的に確保できる)という社会的側面を持つことが分かってきました。

交流会参加者より、さらなる議論を深めるために各再生可能エネルギーの分科会を開催するべきとの意見が寄せられ、2013年度には震災時に活躍した事例が多かった「薪」と「BDF」をテーマとする分科会を開催しました。また、東北の教訓を広く発信しようと、大規模地震が懸念されている中国地方にて、東北地方と中国地方の再生可能エネルギーに関係する団体が意見交換を行う交流会を開催しました。薪分科会では、「各地域が抱える課題の解決に向けて、東北全体で豊富な森林資源の活用を考え、共に取組を推進する必要がある」と意見が出されました。さらに、これまで県境を越えて連携することが少なかった団体同士が分科会をきっかけに知り合い、その後も情報交換や活動地の視察交流を行うなど、新たなネットワーク作りに貢献し、各団体の活動へのモチベーション向上にもつながっています。「東北各地の活動の現場を見たい」「より時間をかけて意見交換をしたい」と意欲的な意見を受けて、今年度は山形県鶴岡市三瀬地区で交流会を開催することが決定しました。東北の薪文化を盛り上げるために、山形県の自治体や企業、市民団体などが企画に参画し、これまでとは違う新しいスタイルの交流会が開催される予定です。





中間支援組織交流会事業

東日本大震災発生後、被災地の最前線では多くのNPOや企業が支援活動に取り組みました。EPO東北ではこれらの多様な団体を後方から支援した、中間支援組織が果たした役割の重要性に注目しています。支援現場ではボランティアの衣食住をサポートする「ボランティアのためのボランティア」の存在が重要でした。同様に支援活動全体を考えた時、物資を支援する団体と現地でニーズに応じた物資調達に取り組む団体をマッチングするなど、団体と団体をつなぐ仲介を行った中間支援組織の活躍は支援活動全体の動きに大きな貢献を果たしたと考えています。

「3.11あの時」ヒアリングの中では、普段からNPO等の活動支援を行い、県内の活動団体や行政等とネットワークを持つ中間支援組織だからこそできた支援事例をいくつも伺いました。中間支援組織の果たした役割や、活動を通して明らかになった課題を「東北の教訓」として広く発信し、大規模地震が懸念されている他の地域で活用していただこうと、EPO東北では活動事例の収集・整理に取り組んでいます。

2013年6月には、東北各地の中間支援組織の皆さまが集う交流会を開催し、中間支援組織の非常時の役割や、今後に向けた備えと課題について意見交換を行いました。参加者からは「日頃の





取組の延長線上に支援活動があることから、常に顔の見える関係性を構築しておくこと」の必要性について多数の意見が出されました。また、非常時に中間支援組織の果たすべき役割として、「正確な情報を整理して発信する情報のコーディネート」や、「収集した情報をもとにNPO・行政・企業をつなぐマッチングとネットワーク構築」、さらに「震災を機に立ち上がったNPOや被災したNPOの支援」などが挙げられています。

EPO東北では、これから起こるかもしれない「もしも」に備えて、「東北の教訓」を全国で共有するために、交流会やヒアリングで伺った情報を整理し、各団体の特徴的な活動事例と成果や課題をまとめています。とりまとめにあたっては、東北各地の中間支援組織の皆さまにご協力いただきました。この報告書は完成次第、EPO東北のWeb-siteで公開いたしますので、各地域でご活用いただければ幸いです。



冊子化 第3弾「3.11あの時stage2013」発刊

冊子は無料で配布しております。お求めの方は、EPO東北までお問い合わせください。郵送をご希望の方は、送料をご負担くださいますようお願いいたします。また、在庫に限りがございますので、数部ご入用の場合は事務局へご相談ください。

※冊子「3.11あの時」「3.11あの時stage2012」も無料配布を 行っております。

※EPO東北のWeb-siteからPDFデータをダウンロードできます。



ECO&復興支援グッズ

環境再生活動の支援につながる、または復興支援につながるエコグッズ (マイバッグなど)

1 大漁旗ブレスレット

地元の石巻に住むお母さん達の手仕事によって作られた「made in ishinomaki」のブレスレットです。ひとつ一つのブレスレットに思いが込められており、「手しごとのあたたかみ」が感じられるものになっています。

1.6mm幅に裂いた大漁旗と牛革を四つ編みにしました。 サイズ調整が可能、男女兼用大人も子供も使用できます。

問い合せ先: FUNADE studio

〒986-0822 宮城県石巻市中央一丁目4-3 TEL: 0225-98-8683 FAX: 0225-98-8683 Email: musubimaru311@gmail.com 価格1580円

funade311.com



2 女川スペインタイル・マグネット

「色を失くした街をスペインタイルで明るく彩る」という、大きな夢に向かって震災後に始まった工房です。 女川スペインタイルは、1000度近い高温で9時間かけて焼き上げているので、何年経っても絵柄が 色褪せることはありません。

表札や絵タイルなどを制作していますが、中でも工房のオリジナルキャラクター「セラくん」「ミカちゃん」のマグネットはお土産品として好評です。 童話に出てきそうな優しい絵柄が人気を呼んでいます。

問い合せ先: NPO法人みなとまちセラミカ工房

宮城県牡鹿郡女川町浦宿浜字十二神60番地の3 TEL: 0225-98-7866 FAX: 0225-98-7866 Email: ms_cobo@ybb.ne.jp 価格800円(税別)

http://www.ceramika-onagawa.com/



3 SHIZU革ブレスレット

南三陸町「志津川」地区のお母さん方による革細工。ひとつ一つが全て手作り。南三陸の町鳥であるイヌワシがブランドのシンボル。復興への希望も込められています。SHIZU革が風化防止の一助となることを願っています。

問い合せ先: オアシスライフ・ケア

宮城県宮城郡利府町中央1-7-1 2F

TEL: 022-356-9443 (10時から17時まで 土日祝日は定休)

FAX: 022-774-1607

Email: support@shizugawa.jp 価格1,700円(税込み)

http://www.shizugawa.jp



子 三県復興 希望のかけ箸

東日本大震災で被害の大きかった岩手県・宮城県・福島県の杉間伐材を使用した割り箸を作りました。 この割り箸が復興の架け橋となり、自然豊かな東北の地が、再び人々の希望を実らせる場所となります よう、願いを込めて「希望のかけ箸」をお届けします。

平成25年度 グッドデザイン賞、平成26年度 ソーシャルプロダクツアワードほか多数受賞

問い合せ先:株式会社磐城高箸

福島県いわき市川部町川原2番地

TEL: 0246-65-0848 FAX: 050-6861-0164

Email: info@iwaki-takahashi.biz 価格540円(税込、内150円が義損金)





http://iwaki-takahashi.biz/



青森のバイオマス資源を活用した 循環型社会の構築を

山林整備活動および木質ペレット燃料の普及活動を通じて、青森の資源とエネルギーが持続可能な形で循環する社会の構築を目指しています。

青森県の木を原料とした木質ペレット燃料が普及することは、山林整備促進と県産材の活用につながるだけではなく、化石燃料の消費を減らし、温暖化ガスの増加を押さえ、その地域からのお金の流出を食い止めることによって、間接的に地域経済を活性化させることに貢献すると考えます。

そこで当法人では、各種イベントやメディアを通じて、青森県の木を原料とした木質ペレット燃料である「青森みらいペレット」を広く知ってもらい、使ってもらうことによって、青森県内の資源とエネルギー、そして経済が地域内で循環できる社会の

構築を目指しております。

その活動の一環として一般市民向けキコリ講座を開催し、自伐林業によって伐採された間伐材を、木質ペレット燃料の原料として買い取る仕組みの準備を進めています。

キコリ講座受講生の有志たちが集まってできた「青森フォレストワーカーズ」のメンバーとともに、森林組合などの手が届かない個人の山林整備活動へのサポートも行っています。

活動拠点となっている木質ペレット製造工場では、必要とする電気を、太陽光発電システムとバイオディーゼル燃料による発電機でまかなって

東北6県 青森

NPO法人青森バイオマスエネルギー推進協議会

●〒033-0062

•TEL: 0176-53-4175 •FAX: 0176-53-3432 •Email: info@bioene.jp •HP: http://bioene.jp

ながら活用しています。

いるため、次の時代を担う子供たちが、環境とエネルギーの勉強をする 場として、地元教育関係者と連携し



十和田八幡平国立公園

- 「網張の森セルフガイド」〜が大人気

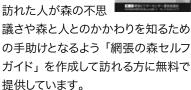
岩手山の山麓に広がる自然豊かな広葉樹の森にある網張ビジターセンターで提供中

- ▲「もっと森のルールや、人間も動物としてどのように行動しなければならないかを知りたいです」。これは昨年、地元の中学生対象に行った自然環境創造ワークショップ「生き物たちと友達になろう」に参加した中学1年生の男子の感想です。
- ▲網張ビジターセンターでは、国立公園 の情報を発信する活動と並行して多様 な生態系を学ぶ場として国立公園を 利用してもらう活動を重視しています。
- ▲その為、一方的に自然ガイドの説明を



聞くのではなく、自分になったもののではなります。 自身が自然や生きものの不思議さやメカニズムを発見 するためのサポート 活動に力を入れてい ます。

▲ビジターセンターの ある網張の森は広葉 樹の自然豊かな森で 多くの生きものが生 息しています。ここを 訪れた人が森の不思



開張の森

▲全長約 2kmの網張の森散策路には、 ところどころにガイドポイントとなる番 号標識が設置されてあり、そこで立ち 止まって周りの自然を観察してセルガ イドの該当する番号の案内文を読む

東北6県 岩 手

網張ビジターセンター運営協議会

▼020-0585 岩手県岩手郡雫石町長山小松倉1-2

•TEL: 019-693-3777 •FAX: 019-693-3778

●Email: amihari@vanilla.ocn.ne.jp ●HP: http://www17.ocn.ne.jp/~amihari/

と、その風景の成り立ちが読み解ける ような構成となっています。

▲十和田八幡平国立公園の八幡平地域 は近い将来、公園指定 60 周年の節 目の年を迎えます。「生物の多様性を 感じることができる場」、「森の中を歩 くことで健康と幸せを感じることがで きる場」として今後も活用されるよう 「網張の森」の環境整備を続けていき ます。





「環境に配慮する農家さん」と 「農に触れたい一般の方」を『農作業』で結びます!

『生物多様性保全』を「農作業」と「人とのつながり」からアプローチ★

初めまして!宮城県内で 2010 年から活動している『NPO こよみのあしおと』です。名前には、日々の移り変わりに耳を傾けてみましょう、という意味を込めました。

■何してるの?

労働力と野菜を交換する日帰りの 農作業イベントを月 1~2 回、農家 さん4軒で順次開催しています。 耕作放棄地にならないようにするた めに現役の農家さんを応援し、また



参加者同士の交流の場としても農地 を活用しています。

■きっかけは?

人間の働きかけが少なくなった事でいきものの棲処が減ってきている場所、それが里山・農地です。ならばもっとそこにアクション起こそう!それが人間の生きる意義だっ!ということで、まずはみんなで楽しく農作業をすることから始めようと考え、団体を立ち上げました。

■参加者の反応は?

農家さんからは「とても助かっています。もっと植えようという気になります!」、また参加者の方からは「農家さんの苦労がわかります」「草取りを終えると、気分も爽快になります」といったお声をいただきます。

東北<mark>6</mark>県 宮 城

NPOこよみのあしおと

〒980-0811 仙台市青葉区一番町4丁目1-3 仙台市市民活動サポートセンター レターケース No.88

•TEL: 080-6027-7836

Email : lets_koyooto@yahoo.co.jpHP : http://ktmhp.com/hp/koyominoashioto/

■今後の展望は?

団体立ち上げ当初は「ボランティア」という考えが強かったのですが、これからは「ソーシャルウで、余暇の楽しづけで、余暇の楽しつ、み方を追求しつつ、



社会問題解決の力にもなれる集団で ありたいと考えています。

■さらなる野望は?

レストランと連携して、食事される方が農にも触れられる機会を作ったり、農業をより多くの人で応援できるよう、仕組みとつながりを作っていきます。

美しい地球を未来へ「クリーンエネルギーの探求」

秋田県大潟村でソーラーカー等クリーンで省エネ技術を磨き未来の電気自動車に向かって20年

1993年「ワールド・ソーラーカー・ラリー」大会から、1994年「ワールド・ソーラーバイシクル・レース」、1995年「ワールド・エコノ・ムーブ」と追加開催されて以来、毎年開かれてきた大会も、2003年には厳しい経済不況の嵐に見舞われ多くの協賛企業が撤退、行政からの助成も見直しとなり開催を断念せざるを得ない状況に追い込まれました。

その時、「日本のトップ技術陣が集まるこの大会が中止となる事の損失はあまりにも大きい」と、今までこの大会に参加や支援していた方々が「守る会」を結成し、開催経費で負担の大きいレース管理要員や車検員を「我々がボランティアで引き受ける」との提案がありました。そのことが

基となり、減額されながらも村の助成と一部の企業協賛で開催継続となったのです。その「守る会」を組織強化したのが「NPO クリーン・エナジー・アライアンス」です。

当 NPO は平成 16 年環境教育部門で「環境大臣賞」を賜りました。しかし、未だにボランティア中心で派手な宣伝も出来ず低予算での運営ですが、この大会から優秀な技術陣が多数育っているのもまた事実です。

今年5月のワールド・エコノ・ムーブ大会は終りましたがソーラーカーラリーやソーラーバイシクル大会は8月開催されます。詳しくは HP イベントサイトをご覧下頂けると幸いです。

東北6県 秋 田

クリーン・エナジー・アライアンス

●〒010-0443 秋田県南秋田郡大潟村中央1-17

• TEL: 0185-45-3339 • FAX: 0185-45-3339 • Email: wsr@ogata.or.jp • HP: http://www2.ogata.or.jp/







美しいやまがた森林活動支援センター 「中津川森と暮らしの学校」

廃校を活用した山村での循環型の生活体験と技術伝承、地域の伝統文化業継続 支援活動

【設立】

私たちは、平成19年に森林活動を 支援するNPOとして法人を設立し8 年目を迎えました。主な事業は、自 然の恩恵を享受する人々に対して森 林地域と都会の交流を促進し、森林 の生態、林業などの公益的機能を知 らせるための啓発事業や森林の不思 議さや楽しさなどを感じながら環境 や森林の果たす役割を知らせる環境 学習事業を実施しています。

【活動】

活動は、大森林祭や100年かけて の桜回廊植樹など賑わいづくりを中 心として多様な活動を実施していま す。その中で、「中津川 森と暮ら しの学校」は、廃校となっていた木 造校舎を活用し平成23年に設立され ました。基本理念は「エネルギーを 精いっぱい消費する文化から、自然 と共生する循環型の生活への価値観 の転換を目指し、山村文化の体験と 技術の伝承を行うこと」です。

具体的には①自然環境の保全と体 験を中心とする、「もりもり元気 塾」、②里地の生活文化を体験する 「山里の暮らし体験塾」及び③「応 援隊」の隊員を募り、地域の伝統産 業である菅笠の材料であるスゲの供 給に力を注いでいます。

【効果】

これらの活動を通じて①山村の現 状の理解者が増える。②持続可能な 森林環境の保全や森林と共生した循

東北6県 Ш

NPO法人 美しいやまがた森林活動支援センター

●〒992-0582 南陽市荻978-1番地(旧JAやまがた置賜吉野支店内)

FAX: 023-642-2978

Email: moridon@e.jan.ne.jp

HP: http://www2.ian.ne.ip/~moridon/

環型社会の重要性を知る。③若者や シニア世代を中心とした外部市民の 参画が促進され、リーダー的人材の 発掘と育成につながる。 ④里山資源 を活かした手仕事や伝統文化を担っ ている高齢者の文化継承への活力と なる。ことなどがあげられ、具体化 しつつあります。









復興人材を育成する

南相馬ソーラー・アグリパークの実績と展開

自然エネルギーをテーマとした体験学習により子供たちの「考える力」と「行動す る力」を育み、高校生や大学生とは新たな社会的事業を起こしていきます。

南相馬ソーラー・アグリパークは、 2013 年 3 月、津波被災地 2 4ha に 500kW の太陽光発電所と 2 棟の植 物工場が完成しました。この1年間、 体験学習プログラムには、市内小中 学生の 4 分の 1 にあたる 800 名が 学校の総合学習の一環として参加し ました。子供たちは、本物の太陽光 発電所の中で巡視点検をして仕事の やりがいを感じたり、パネルの方角 や角度を自由に変えて発電量の違い を研究する体験などを通して、楽し くエネルギーについて学んでいます。 電気自動車に充電したり、そのバッ テリーから電気を取り出して家電製 品を動かす体験もできます。

子供たちに接するうちに、「発表」 に躊躇する子がいる一方で、発表す ることに躊躇のない子供たちは考え

ることにも行動することにも積極的 だということを実感しました。

そのため、2014年5月から、東 北大学大学院准教授の多田千佳さん らと連携して、新たに週末スクール を立上げました。「発表する力」を養 うため、子供たちに「発表する場」 を定期的に提供します。

高校生に対しては、環境ジャーナリ ストとして高名な枝廣淳子さんをコー ディネーターとして、社会的な事業を 立案する週末スクールを福島県内各地 で開講しています。夏休みには大学生 がインターンとして南相馬ソーラー・ アグリパークにやってきます。

こうして成長した若い人材ととも に福島の復興を支える新しい事業を 実際に起こしていきたいと考えてい

一般社団法人福島復興ソーラー・アグリ体験交流の会

●〒975-0023 福島県南相馬市原町区泉字前向15

OTEL: 0244-26-5623 FAX: 0244-26-5624

Email: info@fukushima-solar.com

HP: http://minamisoma-solaragripark.com/







*EPO東北オフィス利用案内

EPO東北のミーティングルーム貸出(無料)

- ■環境活動、震災復興支援活動のミーティングや小規模 セミナーにご利用いただけます。
- ●開館日/月~金
- ●利用時間/10:00~18:00
- ●利用人数/12名まで

※事務所移転に伴い、利用人数が変更となりました

◆イベントチラシの設置

環境イベントや助成金等の募集チラシ、環境にまつわるパンフレットを設置しています。 お気軽にお立ち寄りください。

チラシ設置希望の方は持参または郵送でお寄せください。





*Web-Site oご 案内

◆お役立ち情報:環境助成金情報、エコの日一覧

◆随 時 更 新:お知らせ、活動報告、日記

スタッフによるつれづれ日記、被災地や出張先のレポートが人気です! お知らせページでは、環境省や東北6県のイベント・募集情報を告知しています。

メールマガジン登録者募集中!!

発行:第2週と第4週の毎月2回

登録:無料

内容:環境助成金情報、環境イベント情報、 EPO東北の活動情報や環境にまつ

わるお知らせ

*EPO 東北のパートナーシップ団体

EPO東北は各県で環境活動を進める団体の協力を得て運営しています。

青森県環境パートナーシップセンター ECOリパブリック白神 環境パートナーシップいわて 環境あきた県民フォーラム あきた地球環境会議 環境ネットやまがた 超学際的研究機構

せんだい・みやぎ NPO センター 環境会議所東北

仙台広域圏 ESD・RCE 環境パートナーシップ会議 http://www.eco-aomori.jp/ http://shirakamifund.jp/ http://www.iwate-eco.jp/ http://www.eco-akita.org/index.html http://www.ceeakita.org/

http://www.chogakusai.ecnet.jp/ http://www.minmin.org/ http://kk-tohoku.or.jp/

http://eny.jp/

http://rce.miyakyo-u.ac.jp/ http://www.epc.or.jp/

環境イベント 告知を掲載します

環境イベントを企画している皆さま、ぜひ EPO東北事務局まで情報をお寄せください。 ご提供いただいた催事情報はEPO東北のホームページ、メールマガジン等でご紹介させていただきます。

また、チラシを持参・ご郵送いただいた場合はEPO東北オフィスに設置いたします。

EPO東北は東北地方環境事務所(環境省)と公益財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク(MELON)が協働して運営しています。



※事務所が移転しました。



EPO TOHOKU

東北環境パートナーシップオフィス

Environmental Partnership Office TOHOKU

〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町3丁目2-23 仙台第2合同庁舎1F TEL: 022-290-7179 FAX: 022-290-7181

E-mai:info@epo-tohoku.jp URL:http://www.epo-tohoku.jp

勤務時間:月曜日~金曜日【9:30~18:00】 休 日:土曜・日曜・祝日・お盆・年末年始



